

「Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告」
- Continuing Education Courses に参加して -

株式会社新日本科学 安全性研究所 伴 昌明

この度、日本毒性学会教育委員会による派遣事業として、ユタ州ソルトレイクシティの Salt Palace Convention Center にて開催された 2024 SOT Annual Meeting に参加し、教育コースを聴講させていただきました。指定コースとして午前中に「Nix the Six: Strategies for Implementing Nonanimal Acute Toxicity Testing」を、さらに午後には「Use of New Approach Methodologies for the Assessment of Inhaled Substances: Examples and Case Studies」を受講いたしました。



Salt Palace Convention Center

指定コースでは、化学物質や医薬品、農薬等の急性毒性評価（急性経口毒性、経皮毒性、吸入毒性、眼刺激性、皮刺激性、皮膚感作性）に使用される実験動物の削減及び代替をさらに進めるための、現在進行中の取り組みと最新の戦略に関して講演されました。データベースを基にした急性毒性試験の免除あるいはいくつかの *in vitro* モデルによる置き換えは、動物福祉的な側面だけでなく開発費用の削減にも寄与するため、科学的妥当性が担保される限りにおいて積極的に進められるべきものであります。医薬品開発業務受託機関に勤める者として動物実験代替法についてはある程度情報収集をしていたつもりではありましたが、本教育コースでは新たな知見が数多く得られ、非常に有意義なプログラムでした。午後のコースでは吸入毒性に関して、現在利用可能な New approach methodologies (NAMs) の紹介及びそれらを組み込んだ統合的なリスクアセスメントに関して議論が行われました。



観光名所のテンプルスクエアは
あいにく改修中でした

SOT に参加するのは初めてではありましたが、多数のセッション講演、ポスター発表及び企業展示が設けられ、参加者も非常に多く会場内は活気に溢れておりました。SOT 参加者専用の PC 及びスマホ用アプリは非常に便利で、興味のある発表の要旨や開催場所の検索、個人用スケジュールの作成、オンライン配信の視聴等が可能のため、大規模な学会にも関わらずストレスフリーで学会を楽しむことができました。最後に、このような貴重な機会を与えてくださいました日本毒性学会教育委員会の諸先生方及び事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。